

## 船舶事故調査報告書

平成24年10月11日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵男（部会長）  
 委員 庄司 邦昭  
 委員 根本 美奈

事故種類	衝突
発生日時	平成23年7月29日（金） 06時30分ごろ
発生場所	宮崎県日南市油津港北東方沖 日南市所在の裸簪灯台から真方位067°4,000m付近 （概位 北緯31°34.7′ 東経131°27.3′）
事故調査の経過	平成23年11月1日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 第二勝栄丸 <sup>しょうえい</sup> 、9.70トン MZ2-3082（漁船登録番号）、個人所有 11.95m（Lr）×3.65m×1.30m、FRP ディーゼル機関、471kW（動力漁船登録票による）、昭和63年2月11日 B プレジャーボート 純丸 <sup>じゆん</sup> 、2.2トン 295-43838宮崎、個人所有 6.53m（Lr）×2.38m×1.13m、FRP ディーゼル機関、69.87kW、平成16年1月
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 56歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成2年9月13日 免許証交付日 平成22年6月17日 （平成27年9月12日まで有効） B 船長B 男性 66歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年10月3日 免許証交付日 平成19年2月14日 （平成24年6月18日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	A 船首部外板に擦過傷 B 船首部の乗降用装置に亀裂
事故の経過	A船は、船長Aほか1人が乗り組み、油津港北東方沖を宮崎県川南町川南漁港に向けて帰航中、船長Aが、リモコンを使用して操舵を行

	<p>って約5ノットの速力で北東進していたところ、B船に気付かずに航行を続け、平成23年7月29日06時30分ごろA船の船首部とB船の左舷船首部とが衝突した。</p> <p>B船は、船長Bが1人で乗り組み、油津港北東方沖において錨泊中、船長Bが、船尾で釣りを行っていたところ、付近で錨泊して釣りを行っていた知人から知らされてA船が接近していることに気付き、船首に移動してA船に向かって大声を出して手を振ったが、A船がそのまま航行を続けたので危険を感じて後方に移動したのち、B船とA船とが衝突した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 西北西、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：波高 約0.5m</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>A あり、B なし</p> <p>A なし、B なし</p> <p>A なし、B なし</p> <p>A船は、油津港北東方沖を北東進中、船長AがB船に気付かずに航行していたことから、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、油津港北東方沖において錨泊中、船長Bが、接近しているA船に気付き、大声を出して手を振って注意を喚起したが、A船と衝突したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、油津港北東方沖において、A船が北東進中、B船が錨泊中、船長AがB船に気付かずに航行していたため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・航行中は常時適切な見張りを行うこと。</li> </ul>